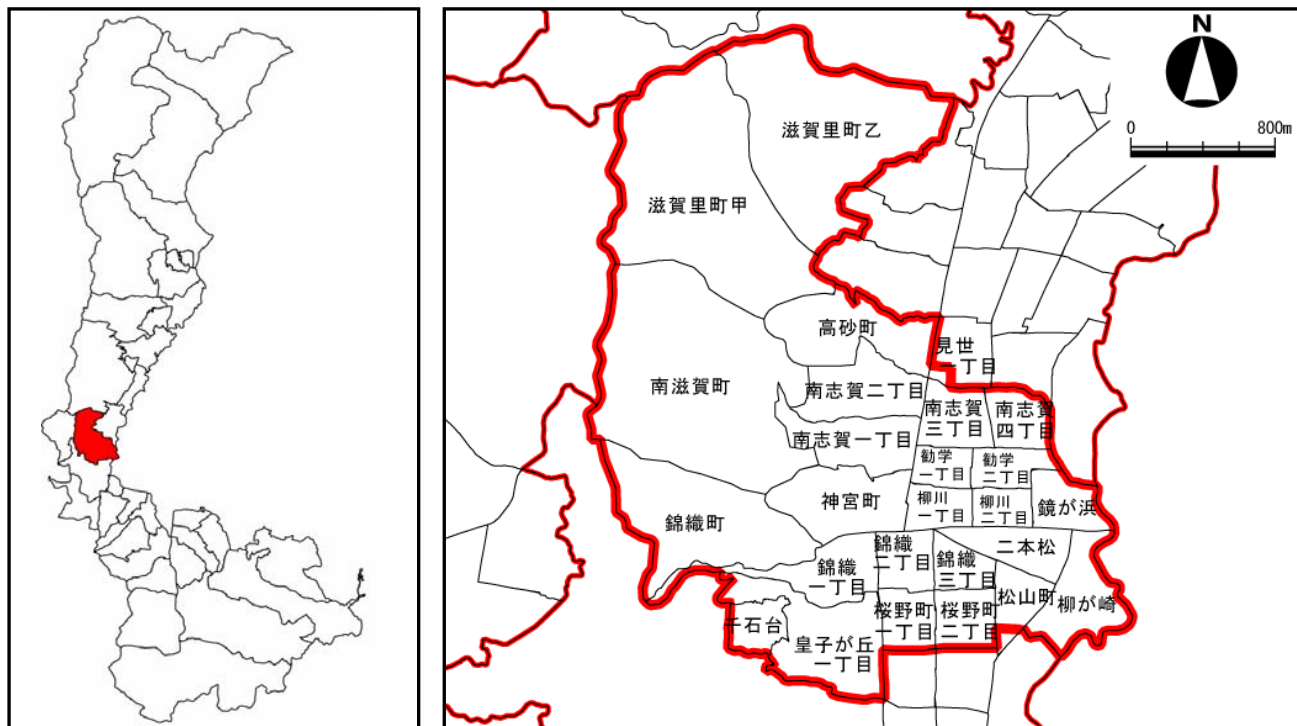


■ 学区の概況



<町丁名>

皇子が丘一丁目、桜野町一丁目、桜野町二丁目、錦織一丁目、錦織二丁目、錦織三丁目、二本松、柳が崎、神宮町、南志賀一丁目、南志賀二丁目、南志賀三丁目、南志賀四丁目、高砂町、見世一丁目の一部、勸学一丁目、勸学二丁目、柳川一丁目、柳川二丁目、鏡が浜、錦織町、南滋賀町、松山町の一部、千石台、滋賀里町甲、滋賀里町乙

(注) 学区界や町丁名は、統計や編集の都合により必ずしも通学区域等とは一致しない場合がある。また、記載の町丁により、避難所等を割り当てるものではない。

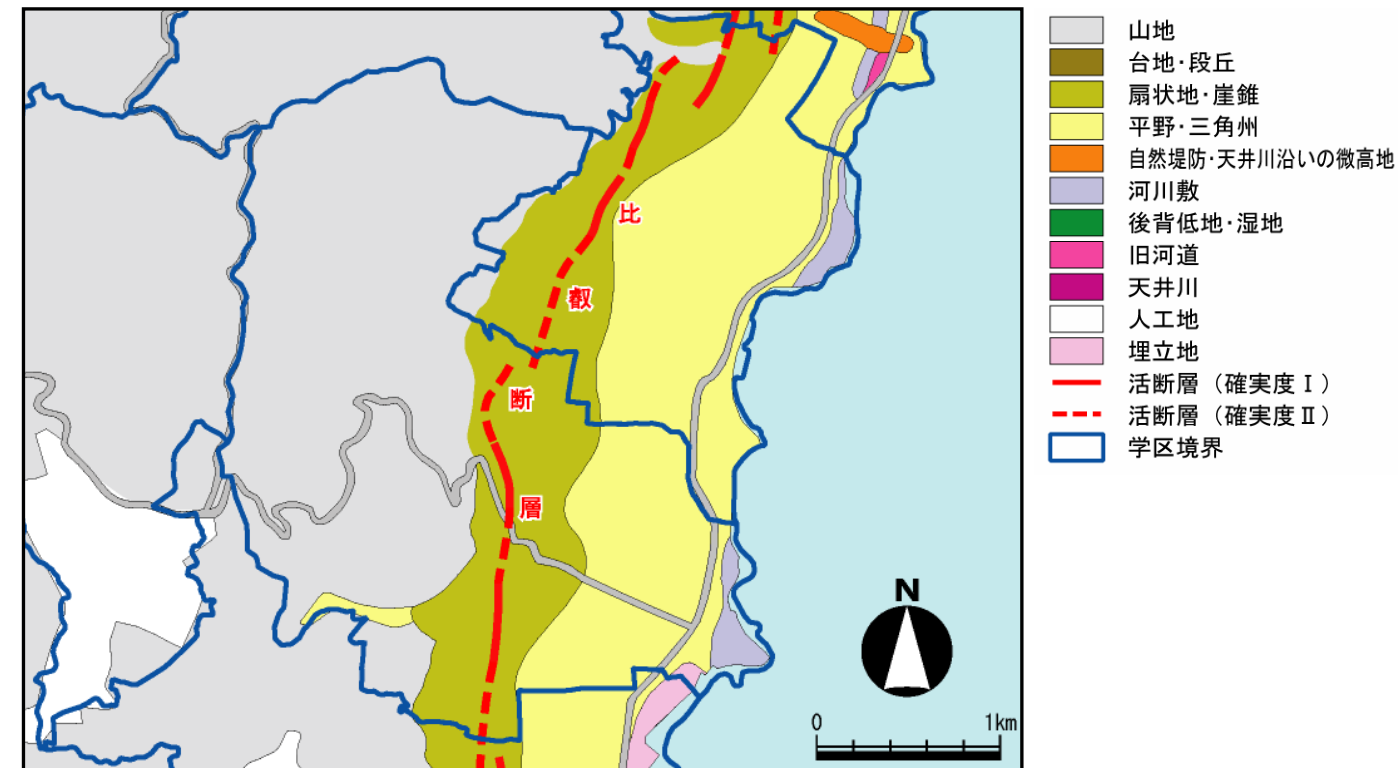
<学区の特徴>

滋賀学区は北を際川、南を不動川でほぼ限られ、比叡山の東麓に位置を占める。学区一帯は比叡山系がつくる花崗岩の風化土を中小河川が押し出して形成された複合扇状地となっている。このような恵まれた立地条件から、弥生時代前期にはすでに集落が形成され、古墳時代に入ると皇子山古墳群等、多数の古墳群がつけられた。

667年にはこの地域に大津宮が建設されたが、5年後には壬申の乱が起り荒廃した。昭和49年以降、錦織地区から大規模な遺跡が発見され、ここが大津宮跡とされている。

柳ヶ崎は湖上スポーツの基地として多くの若者達が楽しむ水辺となっている。一方山手には近江神宮の森や皇子が丘公園が整備され、緑豊かな市民の憩いの場となっている。

■ 地形・地質の概要



(注) 図中の地形・地質については、防災アセスメント調査を行った時点のものである。  
出典：旧大津市域 (H17.3)

<地形の特徴>

- 滋賀学区の地形は、西部が山地、地域中央部がやや傾斜を持った扇状地性の低地、東部が低平な氾濫原性の低地である。柳川は天井川化しており、湖岸線は柳川の河口や柳ヶ崎が琵琶湖に突きだしている。
- 坂本学区より石山学区まで扇状地が連続的に分布し複合扇状地になっている。これは40万年前頃から地殻変動の活発化に伴って、比良、比叡の両山地が上昇し、多量の砂礫が供給されたことや、流域面積の小さい河川が多数分布することなどに起因する。柳川は氾濫原性低地部において多量の土砂を河床に堆積するため天井川化している。

<地質の特徴>

- 西部の山地は、比叡花崗岩からなる。これは中生代白亜紀の火成活動により形成されたものである。

<活断層の特徴>

- 本学区の扇状地分布域に比叡断層が通過している。比叡断層は、坂本から三井寺付近まで延びる、長さ約8.5kmの活断層で、断層を挟んで相対的に西側が隆起する、縦ずれ断層である。



■ 建物の状況

町丁名	住宅密集度 (戸/ha) (注1)	不燃領域率 (%) (注2)	木造率 (%)	旧耐震木造建物 /木造建物 (%)
皇子が丘一丁目	43.4	74.5	52.1	50.0
千石台			53.9	20.0
錦織二丁目	45.8	46.1	73.1	57.2
桜野町一丁目			69.8	36.9
桜野町二丁目	45.1	40.3	72.0	37.2
錦織一丁目	36.7	54.1	79.5	52.9
錦織三丁目	58.0	37.8	70.0	39.1
二本松	55.9	27.8	76.5	59.1
柳が崎	38.1	40.4	17.1	50.0
神宮町	41.5	85.7	79.3	64.8
南志賀一丁目	45.6	72.8	77.8	56.0
南志賀二丁目	41.9	69.9	83.5	70.2
南志賀三丁目	53.0	75.9	80.1	23.1
南志賀四丁目	62.6	57.9	93.2	16.6
高砂町	43.5	75.3	73.5	42.2
見世一丁目	57.1	80.6	74.7	14.8
勧学一丁目	48.1	69.8	84.2	8.1
勧学二丁目	62.4	63.9	73.9	38.9
柳川一丁目	62.3	53.0	91.3	8.0
柳川二丁目	43.8	63.4	82.6	32.4
鏡が浜	18.4	59.6	46.5	9.1
錦織町	42.9	98.5	83.3	80.0
南滋賀町	-		82.4	92.9
滋賀里町甲	-	-	95.0	84.2
滋賀里町乙	-	-	86.7	23.1
松山町	26.6	74.1	45.0	6.7
学区平均	46.3	62.9	73.0	41.3
出典	1, 2, 3	1, 2, 3	4	4

(注) 表中の数値は、小数点以下第二位を四捨五入した値である。

(注1) 市街化区域を対象とした。

(注2) 算出の際に用いる区域面積・空地面積・宅地面積は便宜上、市街化区域及び市街化調整区域の面積を使用した。

出典 1: 大津市都市計画基礎調査 (H2. 3) ~市街化調整区域~

2: 大津湖南都市計画基礎調査 (H9. 3) ~市街化区域~

3: 資産税データ (H16. 5. 31 現在) 4: 資産税データ (H20. 1. 1 現在)

- 住宅密集度の学区平均は 46.3 戸/ha で市平均 (全学区の平均) の 40.2 戸/ha より高い。
- 不燃領域率の学区平均は 62.9% で市平均の 64.7% と同程度である。
- 木造率は、滋賀里町甲が 95.0% で最も高く、柳が崎が 17.1% で最も低い。学区平均は 73.0% で市平均 (67.1%) より高い。
- 旧耐震木造建物割合は、南滋賀町が 92.9% で最も高く、松山町が 6.7% で最も低い。学区平均は 41.3% で市平均 (45.6%) より低い。

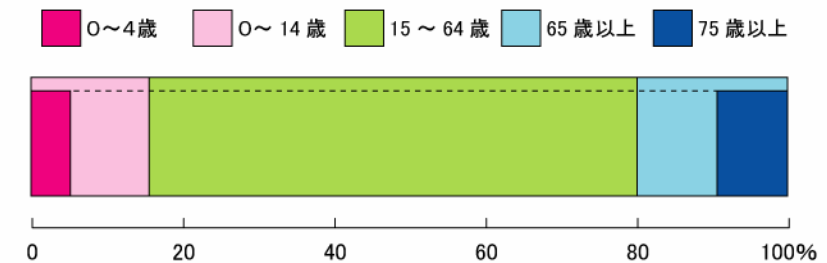
■ 人口の状況

項目	人口等	単位	備考	割合 (%)	出典
学区人口	16,716	人		-	1
年齢別 (0~4 歳)	875	人	学区人口に対する割合	5.2	1
年齢別 (0~14 歳)	2,611	人	学区人口に対する割合	15.6	1
年齢別 (15~64 歳)	10,783	人	学区人口に対する割合	64.5	1
年齢別 (65 歳以上)	3,322	人	学区人口に対する割合	19.9	1
年齢別 (75 歳以上)	1,558	人	学区人口に対する割合	9.3	1
世帯数	7,047	世帯		-	1
1 世帯当たり人口	2.4	人/世帯		-	1
要介護認定者	552	人	学区人口に対する割合	3.3	2
身体障害者	528	人	学区人口に対する割合	3.2	3
知的障害者	121	人	学区人口に対する割合	0.7	3
外国人居住者	261	人	学区人口に対する割合	1.6	1

(注) 1 世帯当たり人口、学区人口に対する割合は、小数点以下第二位を四捨五入した値である。

出典 1: 学区別人口統計表 (H22. 4. 1 現在)、2: 学区別・要介護認定者 (H22. 10. 1 現在)

3: 平成 22 年度 障害者数統計資料 (H22. 3. 31 現在)



<年齢別人口比率>

- 学区人口は市内で 3 番目に多い。
- 学区東部の平野・扇状地部は人口集中地区 (D I D 地区) である。
- 高齢者 (65 歳以上) は 3,322 人、乳幼児 (0~4 歳) は 875 人であり、学区人口に対する割合はそれぞれ 19.9%、5.2% である。
- 高齢者の学区人口に対する割合は市平均 (22.3%) より低く、乳幼児の学区人口に対する割合は市平均 (4.2%) より高い。
- 要介護認定者は 552 人 (3.3%)、身体障害者は 528 人 (3.2%)、知的障害者は 121 人 (0.7%) である。
- 外国人居住者は 261 人 (1.6%) である。



■ 災害関連規制状況

災害関連規制	件数（箇所）、面積	出典
急傾斜地崩壊危険箇所（注1）	17	1
土石流危険渓流（注1）	17	1
土砂災害特別警戒区域（注1）（注2）	0	2
土砂災害警戒区域（注1）（注2）	0	2
山地災害危険渓流（山腹）	11	3
山地災害危険渓流（溪流）	2	3
雪崩危険箇所	0	4
地すべり防止区域（注1）	0	5
地すべり危険箇所（注1）	0	5
浸水想定区域（注3）（0.0m～0.5m）	66,896 m <sup>2</sup>	6
（0.5m～1.0m）	27,843 m <sup>2</sup>	6
（1.0m～2.0m）	60,208 m <sup>2</sup>	6
（2.0m～）	0 m <sup>2</sup>	6
特に重要な水防区域（注1）	0	7
重要水防区域（注1）	2	7
重要水防ため池（注1）	0	8

（注1）危険箇所、区域等の件数は他学区にわたって分布するものも含む。  
 （注2）複数の区域をまとめて1つの警戒区域として公示されている場合があるが、ここではまとめられた複数の区域を単独の区域として計上したため、公示された区域数と異なる。  
 （注3）浸水想定区域は、琵琶湖の水位がB.S.L. +2.5mまで上昇した場合を想定しており、雨の降り方や水位の状況により浸水深は想定と違う場合がある。  
 出典 1：滋賀県砂防課（H21.3） 2：『土砂災害防止法にもとづく警戒区域』（滋賀県 H21.12）  
 3：大津林業事務所（H18.4） 4：滋賀県砂防課（H18.6） 5：滋賀県砂防課（H18.3）  
 6：大津市琵琶湖洪水ハザードマップ（H19.3） 7：平成20年度滋賀県水防計画資料編（H20.5）  
 8：大津市資料（H21.3）

<防災上の特性>

- 学区東部地域の湖岸域には防災上注意の必要な危険箇所の指定部は少ないが、西部の広い地域が土石流危険渓流の影響範囲に指定されており、急傾斜地崩壊危険箇所が点在する。またそれらの危険箇所付近に比叡断層が南北に通過する。
- 扇状地周辺では、土石流危険渓流および急傾斜地崩壊危険場所部分に警戒が必要である。また、地震時には、山地部で崩壊が生じ、2次的に災害が発生する可能性があることにも留意する必要がある。
- 湖岸沿いの市街地部には、琵琶湖湖面の上昇による浸水想定区域が広がっており、琵琶湖からの浸水にも注意が必要である。
- 地震発生について、比叡断層が直接活動した場合は断層の周辺部に大きな地表変位が生じる可能性があるが、直接活動しない場合においても、地震動（地震の揺れ）によって、断層通過部付近では、揺れが増幅して周辺より被害が大きくなる可能性がある（このような現象は兵庫県南部地震時にも見られている）。
- 湖岸域では、液状化の可能性もある。

■ 防災関連施設情報

<避難場所・避難所>

種別	名称	所在地	有効面積（m <sup>2</sup> ）
避難場所	志賀小学校グラウンド	南志賀一丁目5-1	5,716
	志賀幼稚園グラウンド	勸学一丁目8-1	2,815
	柳が崎湖畔公園芝生広場	柳が崎5	1,500
	柳が崎湖畔公園駐車場	柳が崎7	7,000
	皇子が丘保育園グラウンド	皇子が丘一丁目20-20	425
広域避難場所	皇子が丘公園	皇子が丘一丁目1	168,000
	大津びわこ競輪場	二本松1	109,000
避難所	滋賀市民センター	南志賀一丁目8-32	—
	志賀小学校体育館	南志賀一丁目5-1	—
	志賀幼稚園	勸学一丁目8-1	—
	皇子が丘第2体育館	皇子が丘一丁目1-1	—
	皇子が丘公園体育館	皇子が丘一丁目1-1	—
	皇子が丘市民会館	皇子が丘一丁目9-10	—
	大津びわこ競輪場	二本松1-1	—

（注）避難場所：地域住民の集結場所、消防救護活動等の活動拠点あるいは広域避難場所への中継地点として機能する場所  
 広域避難場所：大規模な地震の発生時に周辺地区からの避難者を収容し、市街地火災等から生命、身体を保護するために必要な規模及び構造を有する場所  
 避難所：大規模な災害により避難が長期化する場合、被災者が一時的に避難生活を行う場所  
 出典 大津市資料（H22.12）

<市関連機関>

名称	所在地	電話番号
大津市役所	御陵町3-1	523-1234, 528-2616
滋賀市民センター	南志賀一丁目8-32	522-2180

出典 大津市資料（H22.12）

<警察 110>

名称	所在地	電話番号
滋賀県警察本部	打出浜1-10	522-1231
大津警察署	打出浜12-7	522-1234

出典 大津市資料（H22.12）

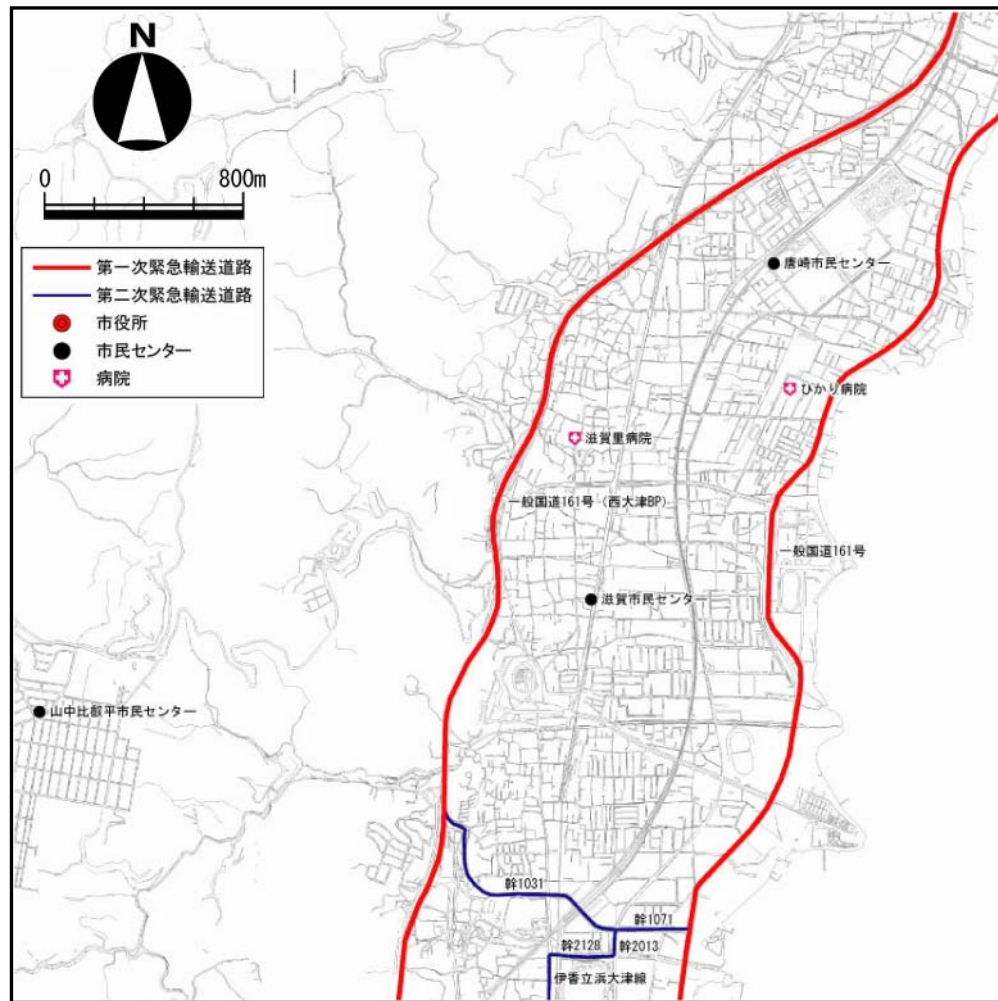
<消防 119>

名称	所在地	電話番号
大津市消防局	御陵町3-1	522-0119
中消防署	御陵町3-1	525-0119
滋賀分団	神宮町1-8	524-4428

出典 大津市資料（H22.12）



<緊急輸送道路>



(注) 緊急輸送道路とは、大規模災害時に応急対策活動の根幹である「人命の確保」「被害の拡大防止」「物資等を確保」を迅速・確実に図るため、緊急指定する輸送用道路のことであり、公安委員会が認める車両のみが通行可能となる。

出典 大津市地域防災計画資料編 (H22. 4)

<医療施設>

種別	名称	所在地	電話番号
救急告示	基幹災害医療センター	大津赤十字病院	長等一丁目 1-35 522-4131
	地域災害医療センター	大津市民病院	本宮二丁目 9-9 522-4607
	病院	大津赤十字志賀病院	和邇中 298 594-8777
		琵琶湖大橋病院	真野五丁目 1-29 573-4321
		社会保険滋賀病院	富士見台 16-1 537-3101
		滋賀医科大学附属病院	瀬田月輪町 548-2111
病院	ひかり病院	錦織三丁目 10-27 522-5411	

出典 大津市地域防災計画資料編 (H22. 4)

■ 地震災害危険度予測

<地震被害想定結果>

● 琵琶湖西岸断層帯地震

被害想定ケース	建物棟数	人口	建物被害			人的被害								
						死者数			負傷者数			重症者数		
			全壊棟数	半壊棟数	被害棟数	早朝	昼間	夕刻	早朝	昼間	夕刻	早朝	昼間	夕刻
ケース1	4,594	15,194	1,183	1,129	1,748	28	15	18	221	143	151	11	7	8
ケース2	4,594	15,194	871	1,182	1,462	16	9	10	279	179	189	14	9	10
ケース3	4,594	15,194	767	1,203	1,369	13	8	9	305	191	206	15	10	10

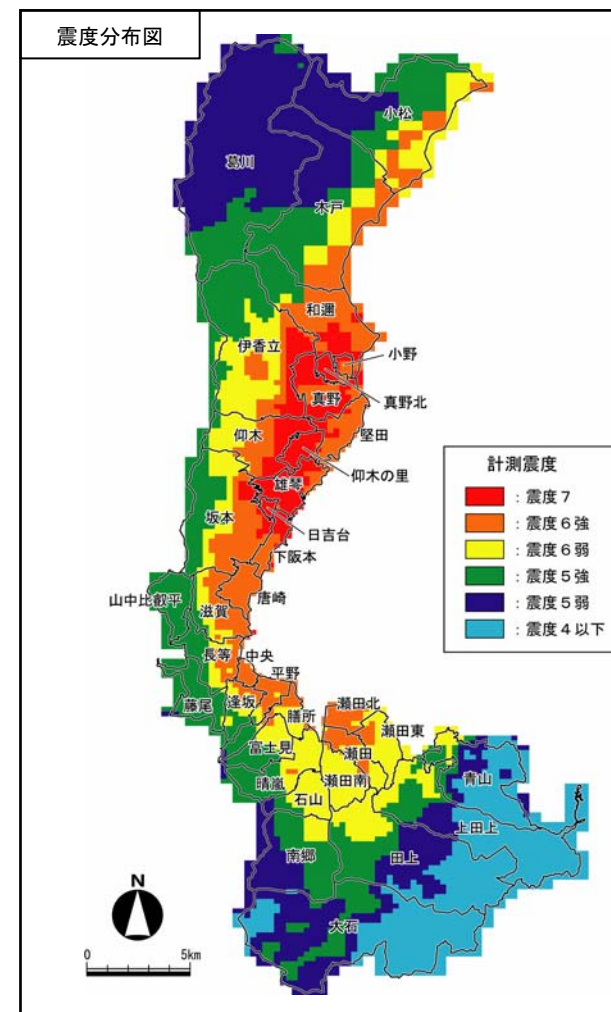
被害想定ケース	地震火災 炎上出火件数			生活支障 避難者数
	早朝	昼間	夕刻	
ケース1	1	2	3	2,193
ケース2	1	2	2	1,973
ケース3	1	2	2	1,897

(注) 表中の建物棟数及び人口は、地震災害危険度予測を行った時点の数字である。

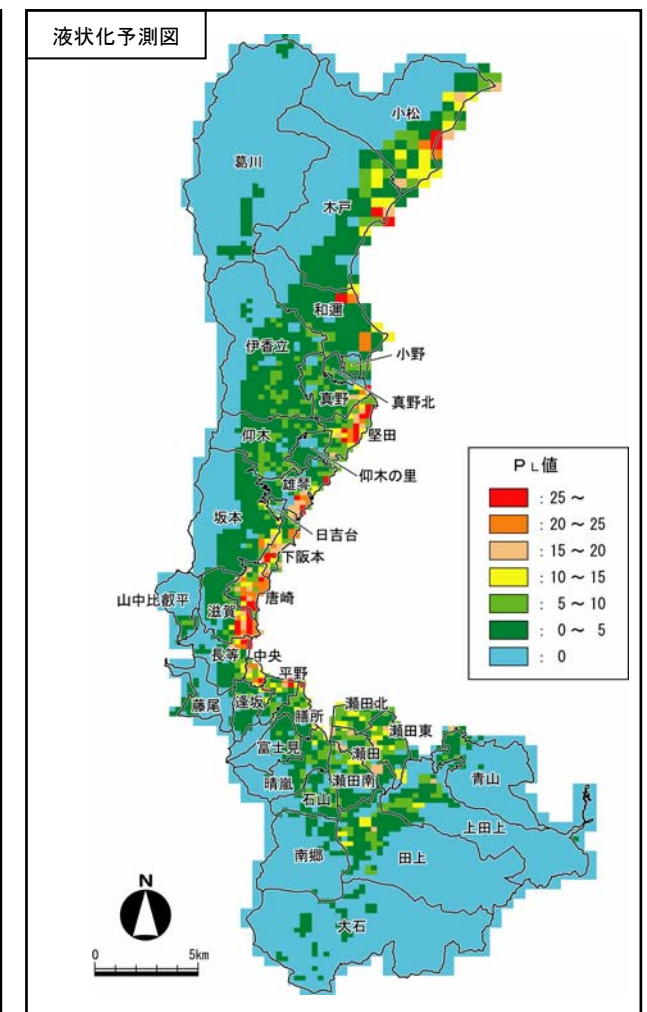
出典 旧大津市域 (H17. 3)

<震度分布及び液状化予測図>

● 琵琶湖西岸断層帯地震 (ケース2)



出典 旧大津市域 (H17. 3)、志賀地域 (H18. 2)



( PL ≥ 10 構造物に影響の出る可能性のある液状化が発生  
PL ≥ 20 激しい液状化 )

